

ジヤッパン、メーロ新聞抄譯

千八百九十五年
七月廿日刊行

日清戦争ニ於ケル万国公法

英國「オックスフォード」大學萬國公法及外交學
教授

「チー、イー、ホルランド」述

(譯者案「ホルランド」氏ハ英國著名ノ公法學者
ニシテ且ツ最モ日本ノ事情ニ精通セリ千嶋号事
件、英國樞密院ニ上訴セラルヤ大ニ周旋スル所
アリ其ノ全ク我邦ノ勝利ニ歟シタルハ氏ノ盡力
與カリテカマリト云フ)

絶東大戦争ハ僅ニ十箇月ニシテ終レリ(日清戦争ハ四

0005

月十七日下ノ関ニ於テ調印シタル媾和條約ヲ五月八日芝
罌ニ於テ交換シタルニ終ハル其ノ間休戦ノ條約アリシモ
戦争ハ繼續セリタリ此戦争ヤ一方ノ帝國ハ威望ヲ
墮シ一方ノ帝國ハ名譽ヲ揚ゲタリ此戦争ノ吾人ニ學
術上ノ好材料ヲ與ヘタルヤ無量ナリト雖モ余ハ唯其
ノ中万国公法ニ関スルモノニ付テ論セント欲ス夫レ
戦争ハ万国公法ヲ學ブ者ノ為メニハ大ナル利益ヲ與フ
ルモノナリ何ントアレハ彼等カ常ニ研究シツ、マル所
ノ公法上ノ問題ハ戦時ニ在テハ之ヲ平時ニ比スレハ続々
其ノ類例ヲ顯カシ從テ從來國民ノ為セシ不明ノ行為
或ハ外交上ノ議論ニシテ確然タル終局ヲ見サレモノ

0006

え

又ハ捕獲審檢所、爲セシ審定、如キ直接又ハ間接
ニ具、的切、解釈ヲ得ルニ至ル可ケレバナリ

抑モ戰時公法ハ世人、明知セラル、如ク大別スレハ下
ニ二項ト爲ス曰ク交戰者間、關係曰ク交戰者ト局外
中立者ト、關係是レナリ

第一項ハ六百年以來世人、論究スル所ニシテ遠ク古代
ニ遡ラサルモ聖經學者道德學者、世ヨリ彼、自然
法ノ妄想學者ヲ經テ今日ノ一定法則ヲ得ルニ至ルマ
テ變々文書、徴スヘキモノアリ 第二項ハ其ノ複雑ニシテ
重要ナルエト交戰者間、戰時法規ヨリ大ナルモ其
起原ハ輒近ニシテ一個ノ學科トナリシハ實ニ十八世紀

0007

ニ在リ

余ハ日清戦争ニシテ以上ノ二項ニ關係スル或ル兵ニ付
世人ノ注意ヲ惹カント欲ス然レバ之ヲ論スルニ先キテ
日清兩國ニ万国公法ヲ適用スヘキヤノ問題ニ関シ一ニ
言フ陳フヘシ此ノ問題ハ二三新聞ニ已ニ妄論セシ所
ニシテ即チ千八百九十四年八月十一日ノ土曜雜誌ハ論シ
テ曰ク日清間ニ適法ノ戦争ナシ云々又曰ク喋々スル言
語ト殺伐ナル兵器ト外ハ一モ開明天物ノ存スルモノナキ
野蛮國ニハ万国公法ヲ適用ス可カラスト千八百九十
四年法律雜誌第四百七十八頁五百三十頁五百三十六
頁ニモ同一ノ論アリ余ノ見ル所ヲ以テスレハ日本及清國

0008

ハ相互、間又ハ他国ニ對シ彼ノ歐洲諸國ノ間ニ行ハル所
ノ義務ニ服從スヘキモ、ナル乎ト云フ、問題ハ萬国公
法、本質及其適用範圍ト均シク一大問題ニ屬スル
ナリ古人ノ見解ニ依リハ國際法ハ耶蘇教國、法ニシテ耶
蘇教以外、同ニ適用ス可カラザルゴト猶ホ希臘市府、
普通法カ野蠻社會ニ適用ス可カラザルガゴトナリハ
疑ヒナシ然ルニ歐洲、宗教分裂スルニ及ビ近世ノ法律家
ハ漸々宗教觀念ニ睨ミ萬国公法ヲ以テ歐洲ノ公法即チ
国民族ノ總テノ共同公法ト爲スニ至レリ故ニ歐洲而
部ノ諸國又其ニ更ニ其ノ南北亞米利加諸國ハ其ノ宗
教ヲ其ニスルゴト之ヲ同ニ認メ義ニ其ニスルカ如クナラザルモ同

一、國民族ト認メ其以外ノ諸國ハ之ニ加入スル資格ナキニ
ト爲シ唯ニ時機ニ應ジテ國際ノ關係ヲ處シタルハ然
ルニ千八百五十六年巴黎條約ニ拠リテ土耳其帝國ニ
公然其内ニ加ヘヨリ東方諸國モ亦歐洲ノ公法ニ其
カニ端緒ニ附キタルモノ如シ此ヨリ後ニ歐洲諸國ト東
洋諸國トハ常ニ親好ノ交際ヲ保テ相互ノ條約ハ年ニ
ヨリ如ク互ニ之ニ遵守スルニ至リタルコト以テ吾人ハ今此
新永者ニ我カ友誼社會ニ加入スルヲ見テ異ニス但シ
其ノ新永者ハ單ニ見習者トシテ許可セラレタルナリ日
本ノ如キ即チ是レナリ清國ハ見習者タルコト得ヌ何ニトナレ
ハ清國ハ泰西ト德義ニ同シ又ハ世界ノ社交ニ便テ條約

0010

例之ハ度量衡郵便電信ノ萬國條約ニ加入スルノ莫ニ於
テ遠ク日本ニ及ハサレバナリ就中清國ハ傷者ノ救護ニ関ス
ルゾゼネビ條約ニ加入スルコトヲ為サバモ日本ハ數年前ヨリ
之ニ加入シ清國ハ歐洲人ノ必要ヲ充足スヘキ裁判所及法典
ナキモ日本ハ已ニ之ヲ制定シ居留歐洲人ノ享有シタル治外
法權ヲ廢セントセリ故ニ余ハ言ハントス日本ハ今回ノ戰爭前
已ニ歐洲ノ一族中ニ見習人タルコトヲ許サレタルモ清國ハ未タ
其ノ候補者タルニ過キスト又余ハ更ニ進ンテ二帝國相互ノ
資格ヲ次キノ三件ニ付テ査覈セントス第一宣戰第二戰
闘上ノ行爲第三交戰國間ニ生スル友誼的處置
第一 日本ハ千八百九十四年八月卅一日(一日ノ誤リナラン)ヲ

以テ正式ニ宣戦シ清國ハ翌日ヲ以テ宣戦シ日本ヨリノ挑戦
ヲ諾シタリ然レモ戦端ハ宣戦以前既ニ開カレタリ七月廿五日
水ノ艦隊ハ朝鮮牙山ニ援兵ヲ護送シタル清國ノ軍艦ト交
戦シ日本ノ陸軍ハ其ノ二十九日ヲ以テ牙山ヲ陥レタリ故ニ兩
国間ノ戦争ハ七月廿五日ニ起レルモノトス而シテ戦争ハ宣
告ヲ待タスシテ開始セラル、モ是モ公法ニ違反スルコトナシ何
ントナレハ宣戦ハ如何ニ責讃スヘク且ツ多クノ便利アルモ正當ナ
ル戦争ノ端緒ト看做ス能ハス其ノ宣戦スル時ハ戦争ノ既
ニ開カレテ間断ナク継続シ在ルハ古ヨリ萬国公法ノ一定法
規トスル所ナレハナリ而シテ此事實ノ論理ニ合フヤ否ヤヲ見
ント欲セハ曾テ敵国ハ一ノ通知ヲモ爲スナク海峡、水路ヲ

0012

利用し我英國ニ攻ム入ルコトヲ得ヘキヤ否ノ問題起リシ當時
ニ於テ大抵モリス氏リ陸軍省ノ要求ニ應ジ提出シタル此問
題ニ関シ歴史上ヨリ論究シタル論策ヲ参讀セハ自カラ明解
スル所アラシ

第二 戦鬪上ノ行為ニ関シ清國ハ開明諸國ニ行ハルハ
習慣ヲ用ビス又其ノ嚴正ナル約束ニ拠ラス黃海ノ役丁提
督ハ号令ヲ為シテ曰ク敵艦ニシテ白旗又ハ清國旗ヲ掲クル
モノヲ意トセス見流波スルニ至ルマテ之ヲ砲撃スベシト又將
軍宋慶ハ滿洲北郭ノ各地ニ令シテ曰ク日本三將軍ノ首
級ヲ獲タル者ニ一萬兩ヲ賞與スベシト想フニ清國ノ軍
隊司令官ハ常ニ賞金ヲ懸サテ日本俘虜ノ首級ヲ求メ

之ヲシテ戦死ニ教俗スル残忍ノ死ヲ遂ケシムルヲ見、
旅順ヲ攻撃スルニ當リ清國人ノ俘虜トナリ、日本人ノ拷問
ヲ受ケ身首処ヲ別ニシタリ日本人ノ後ニテ未ダ看之ヲ見
テ憤恨殆ト狂セシト欲シ遂ニ旅順口陥落後四日間、虐殺
ヲ見ルニ至レリ

此虐殺ヲ除クノ外日本人ノ作戰法ハ歐洲諸国カ実行ス
ル最良ノ行為ニ合セラルナレ而シテ此レ皆陸軍大臣大山
伯ノ千八百九十四年四月廿二日ノ告示ヲ遵行シタル結果
ナリ該告示ヲ見ルニ先ツ戦國ハ国ト国トノ戦國ニシテ其
海陸軍人ニ非カルモノハ是ヲ敵トセラルコトヲ明揚シ且ツ曰
ク日本ハ千八百八十六年六月ニ於テ四不バ條約(俗ニ之ヲ

0014

赤十字社ト云フニ加入セシテ以テ敵ノ負傷者ヲ過スルニ
仁慈ヲ以テスルハ固ヨリ其ノ所ルヲ以テ清國ハ此ノ條約
ニ加入セスト雖モ其ノ負傷者ハ救護セザル可ラス其ノ俘
虜ハ寬待セザル可ラス云々ト

日本カ戰鬪上ノ行為ニシテ萬國公法ニ合スル莫ク在ニ叙
列スルコト有益ナルベシ即チ

第一 日本ハ千八百八十六年以來巴里ノ宣言ニ
調印シタリト雖モ清國ハ之ニ調印セザルガ故ニ日本ハ
清國ニ對シテ私有捕獲用巡視船ヲ使用スルモ違
法ナラザルニ更ニ之ヲ使用セザルモノハ如シ

第二 日本ハ聖彼得堡ノ宣言ニ違反セシモノナシト

虽以清国ハ爆發彈ヲ放射シ之ニ違反シタリ

第三日本政府ハ武士ト称スル双刀携帶者ヲ募集ヲ禁シ野蛮的補助兵ヲ用ヒガリシ但シ士族ニテ人夫ト爲リ役屬セシモノ、中ニハ敵ヲ虐殺シタルコトモアルヨシ

第四去ル一月日本艦隊ハ牽制攻撃ヲ爲メ登州ヲ砲撃シタルヨリ宣教師ハ該府ノ堡塁ニキテ口実トシ以テ苦情ヲ申出テタリ然レモ該地ニハ砲台アリテ日本ノ砲撃ニ應射シタルノ敵アリシハ疑テキモノ、如シ第五日本ノ占領シタル要塞内ノ敵意ナキ人民及外国人ノ待遇方ハ讚辭ヲ呈シ然ルヘキモノ、如シ

6

0016

日本兵、金州ヲ陥ル。ヤ將校一名各倉庫ヲ守衛シ
其、所有主ヲ保護シ兵卒人夫、掠奪ヲ防キ又日本
民政廳長官ハ日々清国人数百名ニ食ヲ給シタリ
牛莊城、市街戦ニ於テ日本軍ハ特ニ城内ニ在ル
英国教師、家ニ衛兵ヲ附シ又千八百九十五年五月
六日望口ヲ陥ル。ヤ其、住民ヲ保護シ又六百人之兵
ヲ分遣シテ居留外国人ヲ護ラシメタリ
第六日本軍ハ敵、戦負ト密ニ抵抗シガルモノハ之
ヲ殺サ、ルヲ泣動トセシモ、如シ浪軍艦ハ沈没シワ
アル高陸馬ト小艇ニ乗り移リ及海中ニ躍下シテ游泳
スル兵卒トシ白ト射撃ヲ止ムケリト傳アルモノアレシ

0017

其確証ナシ旅順口ニ於テ日本兵カ始メニ市内ニ入り
時ノ行為ハ之ニ違背スルヲ得ヘシ軍服ヲ著セサル
人夫又ハ軍服ニ脱シタル兵卒ノ猶ホ小銃ヲ携行スル
ヲ發見シタルトキ之ヲ銃殺スルハ歐洲近世ノ戰事ニ
於テ其ノ先例ナキニテ然レモ惜イ哉日本ノ將校
下士卒ノ行為ハ旅順口ノ入口ニ暴露セラレタル其
同胞慘死ノ遺骸ヲ目撃シタル一事ヲ以テ韓解シ
得ヘキ範圍ニ超ヘタリ日本兵ハ旅順口ニ入ルノ日ヨ
リ四日間ハ非戦負傷者兒童ノ別ナク残息ニテラ
屠殺セリ歐洲人ノ公使館付武官及從軍通信
者ハ清國人ノ或ハ銃殺セラレ或ハ首足知テ異

ニセラレタルヲ見テ酸鼻セサルモ、ハナカリシ此ノ如キ勢ナレ
ハ其ノ死ヲ免カレタルモノハ全市中僅カニ三十六人ノ
ト云フ是レ其ノ同胞ノ屍ヲ埋瘞スルニ使役セラレ
ス可ララスト証セシ紙片ヲ帽ニ結着セラレテ幸アリテ
死ヲ免レタルモノナリ
威海衛ノ陥落ニ至リテハ以上ニ正反對ノ美事アリ
砲名ヲ守リシ清国兵ハ安全ニ放免セラレ要塞ノ
防備ニ失失ミタル外人モ亦袖手ニ於テ嘗テ嫌
疑ヲ受ケ拘留セラレタル米国人一名ヲ除キ皆放免
セラレタリ然レモ此米国人モ其ノ後該地ヨリ直ケニ
合衆国ヘ航スルヲ宣誓シテ同シク放免セシレ

0019

澎湖嶋馬公城、陥落モ亦然リ將校ハ俘虜トシ
 ニ日本ニ護送セラレタルモ其年ハ清国風帆船ニ
 乗セ大陸ニ送り之ヲ救免シタリ
 第七 千八百八十六年日本ハ四ノ條約ニ加入シ
 同年赤十字社ノ組織ヲ改正セリ元來赤十字社ハ
 西南騒亂ノ時彼我ノ別ナク傷者ヲ救護スル爲メ
 ニ王室保護ノ下ニ設置セラレタル所ニシテ公然セ
 ズ本府ニ本社ヲ設置セル赤十字社ノ名簿ニ加入
 シタリ方今ハ貴顯ノ夫人ニシテ看護婦トナリ此社
 ニ屬スルモ、甚タ多ク社員ハ千ヲ以テ數フルニ至リ

廣嶋大坂東京ニ病院ヲ設ケ清國俘虜ノ負傷者ヲ收容
シテ之ヲ遇スル極メニ懇切優渥ナリ

日本公使ニハ條約中敵軍医及野戰病院ニ關スル
條目ヲ實施スルノ機會ヲ得サリ是レ清軍ニ軍医
及野戰病院ヲキラ以テナリ

第三 萬國公法ノ原則中最モ基本トスヘキモノニシテ最
モ廣ク採用セラレタルモノハ公使ノ侵ス可キリテ休戦旗ニ
對スル契約ヲ遵奉、交戦兩國間ニ此等ノ契約ヲ實行スルニ
要スル信義トス

日清兩國ハ此原則ニ違反スルヲ見ス唯シ日軍ノ休戦決定
ニハ通知セシメ、自ノ派遣スル軍使ノ休戦旗ニ對シテ清

又、砲撃シタル一事、兩國啓蒙、初、日本公使、北京ヲ發
スル時、規律不整ニシテ、清吏一隊、之ヲ罵詈シ、玉石ヲ擲ケタ
ル。該一行、大沽ヨリ、東歸スル時ニ至リ、清国官吏ハ直ニ其
罪ヲ謝シ、狂者ヲ罰シタル一事トアリ。

日本政府ハ、テトカレ氏、及張帥ニ使ヲ委任、全權ニ欠
クル所アルヲ以テ、之ヲ拒絕シタリ。至、李鴻章、全權公使
トシテ来ルヤ、禮ヲ厚シテ之ヲ納レ、時ニ下ノ関ヲ以テ、備和談判
ノ地ト定メ、以テ談判ヲ開キタリ。日本政府ハ、李全權、爲メ
警戒ヲ嚴ニシタルモ、三月二十五日、狂漢ハ不意ニ李鴻章
ヲ狙撃シタリ。此狂漢ハ、即時縛ニ就キ、終身懲役ニ處セラレ
警言、蔡官吏ハ怠慢ノ罪ヲ以テ、免官セテレタリ。而シテ、皇帝ハ

李鴻章ニ賜フニ優渥ナル慰問ヲ以テシ侍医ヲシテ其ノ傷
ヲ治療セシメタルモ猶ホ以テ足レリト爲サス嚮ニ嚴格ナル
條件ヲ附シタル休戰條約ヲ無條件ニテ許可セラレタリ
爾來兩國ハ敵ニ休戰條約ヲ遵守し講和談判ハ引續キ歩
ヲ進メテ遂ニ熟成シ其結果四月十七日ノ條約調印トナ
リ五月八日條約交換トナル此間兩國ノ所爲ハ歐洲
諸國ニ行ハレシ所ト異ニ要ナル所ナシ
兩國間相互ニ妥協ヨリ發生シタル問題ハ之ニハ戰國ト中
立國ト間ニ分カレタリモ一ニハ在リテ他ニハ在ラズ
其正々トシタル交渉ハ此ノ如キトナリ
日清戦争ニ於テハ一ニハ在リテ他ニハ在ラズ
日清戦争ニ於テハ一ニハ在リテ他ニハ在ラズ

戦争ヲ其所領内ニテ為スヲ禁止スルノ權利ヲ包含スルモノ
トス該戦争ニ於テモ香港ニ於ケル英國ノ權利ヲ犯シ若ク
ハ其領海内ニテ交戦ノ行為ヲ為ス、企圖アリシコトナシ
又日本國ハ上海、如キ諸外國人ニ取テ利害得失ノ關係
多キ港内ニハ侵犯セザルコトヲ約シ清國モ亦水雷ヲ以テ該
港内ニ航行スル船舶ヲ妨ケザルコトヲ契約シタリシコトアリ
ト云フ又清國ニ於ケル中立國人民ノ身体及財産ハ清國人
モ日本人モ齊シク之ヲ厚衛シタリ戦闘ノ開始セラレシ後數
日ナラスシテ大沽ニ繫留セシ英國船重慶等ハ清國兵數名
侵入モテ日本ノ乗客六十五名ノ男女老幼ニ見童ニ暴行ヲ加
ヘタリ然レモ清國道名、英國領事ニ對シ十分ノ謝罪ヲ

0025

陳へタルハ事實ナリ日本領海ニ於テハ神戸港ニ寄泊シ
タル佛國郵船ニ未開ノニ軍用ノ機密ヲ察知シ清國
政府ニ援助セシ爲メ之ヲ捕ハ該國ニ送リトスル者東ニ
アリテ其才法タル緩ハ小説的ナルモ其機密書類ニ於テハ
証跡現然タルヲ以テ之ヲ拘留セタリ是ハ正當ノ行為
ナリトス交戦ノ兩國ト外交上ノ交通ヲ繼續スル中三國ノ權
利ハ交戦時莫ク干渉セテトリコトナリ然レモ中立國ノ
義務ハ其ノ權利ヨリモ高ク遙カニ大ナルモノナリ第一三中立
タルノ邦國ハ平常ニ決行スル諸事ハ或ル行為ヲ禁
止セラルコトアリ第二中立國ハ單ニ戰闘ノ爲メニノミ
用セテ他ニ効用ナキヲ加ヘ所爲ノ若干部ヲ禁止スル

務。第三中立国ハ其臣民ニシテ交戦ノ場合ニアラレハ全
ク無罪タルヘキ所爲ニ對シ交戦国ヨリ被リタル所ノ責對ヲ
聽取スルノ義務アリトス其ノ事實、幾分ハ過般ノ戦争ニ於テ
發作セシモノアルヲ以テ茲ニ列誌セシ

第一(二)中立国ハ決シテ如何ナル手段ヲモテ戦鬪ニ干預スル
タメニ交戦国ノ武装シタル隊伍、後ニ追隨スルヲ禁ス
英、提督ハルシーモルトル氏カ日本軍艦ヲ追隨シ之ニ對
シ敬意ヲ表スルタメトテ發射セシ祝砲ハ威海衛ノ港
灣内ヘ日本軍艦ノ航カニ接近セントスルニ當リ國人ヘ通告
シタル所爲ナリト擬ヒラレタリ是ニ不韙ノ事ニシテ此
實際ノ事情ニシテ日本人ニテ解セラル。同国ノ人

心ヲ激昂シタリ(三)中立国ハ交戦国ノ何レニ對シテモ兵
 貨ヲ供給スルコトヲ得スト案氏中立国陸軍又ハ海軍ニ
 所屬セザルモノガ交戦国ノ一方ヲ援助スル行為ニ之ヲ
 適用セザルモノトス過般ノ戰闘中教員 歐洲人ハ清
 國軍ニ奉職セシト案氏独逸ハテオシハニシテケニサ佐
 ノ馬メニ又又同ハ提督マワケルル此後 案氏ニハ責任
 ナキモノトス(三)中立国ハ交戦国ノ双方ハ軍艦ヲ販賣スル
 ヲ禁止スル義務アリ聞々ガヤカンバノリ中立国ノ巡航
 艦「エスメラー」号ハ客年十一月中日政府ハ賣却
 セラレ又同艦隊ハ案氏ハ清國ハ賣却セラレタリト
 是レ大ニ中立義務ニ違反シタリ 行為トス

10

0028

第二中立国ハ其ノ管轄下ニ属スル人民ニ或ル事業ヲ為
スヲ禁スルノ義務アリ又其ノ領土内ニテ交戦国ノ軍事
業ヲ為スヲ禁シ即ケ例ヘハ戦闘事業ノ根據地トシテ
且ノ領土ヲ使用スルヲ禁スルカ如キノ義務アリ故ニ英國力
中立ノ布告中ニ女皇陛下ノ領土ノ諸港ニ二十四時間云
々ノ條規ニテ條ヲ履行スルノ條アリ此條規ニ遵ヒ日
清兩國ノ軍艦ハ常時ノ状態ニ於テハ決シテ揭示ノ時限
内ヨリ外ニ更ニ斯ル港灣ニ繫留スルヲ許サレバ又交戦
国ノ一方ニ属スル軍艦等ハ商船カ其港内ヲ解纜シ
タル後極メテ短サノ時間内ニ他ノ一方ニ於ケル交戦国ノ
艦船ニ出港スルヲ許サス又中立国政府ハ其ノ人民ニ

交戦国ノ使用ニ便スル武器ヲ輸送スルコ禁スルノ義務
ナシト云々現今、是説ニ拠レハ交戦ニ使用スル兵ヲ軍
艦ノ輸送ヲ禁スルノ義務アリトスモ義務ノ制限ニ
就テアラバトモ事件ニ因ニ種々ノ議論アリテ今猶
未疑團ノ解ニ付ルモノアリト云々中立國政府ハ外國兵
役條例差クハ之ニ齊シキ者ヲ法令ヲ設ケ兩交際
國双互開戦ノ場合ニ於テ自國人民一才ノ交際國ニ
對ニ遠征軍ヲ發スルノ行爲ト是ヲ類似セシキ者
業ヲ爲ス者ニ對ニ國際公法ニ規定セシ義務ヨリ一
層強大ナル権力ヲ行使ス日本ノ爲メニ「タイン」河畔
ニテ造船シタル軍艦五田等ハ宣戦ノ布告未タ發

セサルニ先々發航シタリ然レモ宣戰發布後ニ至テ
ハ吾人ノ諸造船所ヲハ税関吏ヲ嚴密ニ注意ヒルヨ
リシテ目清双方ノ海軍ハ英國ヨリ一隻ノ船舶ヲ得テ之ヲ
増勢スル能ハカリシ例ヘハ加テワキオルニテ造船セシテ
イオゼニス号ハ正シク軍事用ニ機装セラレシモノニシテ
我が外務省ハ其ノ造船中工事ノ進捗ニ関シ常ニ報
告ヲ得シヲ以テ其ノ速力試験ノ爲メテイムスレ河口ニ進
航スルヤ直々ニ之ヲ海軍省ニ通報セシカバ海軍省ハ
三十人ノ海兵及水夫一隊ヲ分遣シ之ニ乗込マセタリ斯
ク嚴重ニ注意セシヨリ同号ハ英國海上ヨリ發航スル
コト能ハカリシ

0031

第三 中立国ハ其ノ臣民ノ營業上ニ三項ニ関シタルモ
ハ交戦国カ交戦中ニ干渉スルヲ許シタル義務
アリ即チ封港内ニ進入シ禁制品ヲ運搬シ交戦ノ用
務ヲ為スノ三項是レナリ凡ソ中立国ノ臣民カ交戦国ノ
一才ニ於テ封鎖シタル港内ヘ進入シ戦時禁制品ヲ
販賣シ又ハ運送シ交戦国ノ一方ノ為メニ負負若クハ
報信ヲ運搬スルコトアルモ中立国ハ其ノ臣民ニ對シ
テ之ヲ禁止スルノ義務ナシ然レモ該中立国臣民ハ斯ル危険
ナル所業ノ為メニ重ク被リシ交戦国ヨリシテ慣習上ノ責
罰ヲ施サルコトアルモ敢テ自国ノ政府ヨリ保護ヲ仰ケ
コト能ハサルナリ而シテ交戦国ハ斯ル危害ヲ責罰シ

テ之ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ之ヲ訪問搜索シテ十分干渉スルノ權利ヲ保有スルモ、トス是ヲ詳言スレハ友戰國ノ巡航艦ハ此ノ如キ危害ノ所業ニ疑ハシト道理上仮想スルトキハ何レノ商船ニルヲ問ハズ之ヲ扣留シ之ヲ検査スルヲ得且ツ捕獲審檢所ニ引致シテ之ヲ審明スルノ必要アレハ之ヲ拘留シテ審檢所ニ回航セシムルヲ得

封港ノ事項ハ過般ノ交戦中云示セテレガ如シ然レモ戰時禁制品ノ問題ハ時々發生シタリ而シテ該物品ニハ數種類アリト雖モ施條砲及彈藥ノ如キモノニ至テハ禁制品タルコト疑ヒナキナリ然レモ交戦國ハ戰闘ノ開始ニ

,0033

先々々其ノ禁制品タル品名ヲ明記シテ公達ニ出スハ通常
ナリ日本ハ鉛及石炭ニ関シテハ公達ヲ為セシカ如シ然レモ
米穀運搬ハ禁止セサルコトヲ約シタルカ如シ清国ハ斯ル公
告ヲ為サリシ而シテ九月初旬日本ヘ向ケ航行スル英國
船一隻ハ上海ヘ寄港シタルニ其搭載品中ニ在リシ塩酸
加里ノ荷卸ヲ了ハルマデハ之ヲ航行ヲ許容セザリキ同月
ニテ一日ニ清国ノ一巡航艦ハ名湾海峡ニテ英國汽船ハ
タニ等ニ戦具運致ノ嫌疑アリトテ尙ホ詳細検査ノ為
メニ難望マテ引致シタリ爾來禁制品ニ関シ日本ノ巡航
艦ハ勿論ホ検査ヲ執行シタリ過ル三月中直隸湾内ニテ
日本ノ巡航艦ハ独逸兵ニ英國ノ国旗ヲ掲ケタル汽船數

隻ヲ折角檢閲シタリ以上ノ処置ハ某部ニテハ苛酷ナルヲ
歎ナリト論スルモノアレ氏實ハ是レ正當ノ処置ナリ四月十日英
国汽船益生号ハ三十二万個ノ砲彈ヲ所屬ナリト仮装シテ
上海ニテ搭載セシカ大沽沖ニ於テ日本軍艦ハ之ヲ拿捕引致
シテ在佐世保ノ捕獲審檢所ニ於テ之ヲ審檢セシカ終ニ之
ヲ放免シタリ日本ハ開戦ノ初ニ當リ捕獲審檢法ヲ新設
シ初審及控訴ノ二審檢所ヲ開設シタリ其ノ訴訟法ハ
法律研究社會中ニテ最良ノ價值アリト評セテシモ、ニ
シテ公衆ニ周知セシメンタメ之ヲ公示セラレタリキ余ハ捕
獲審檢事件ノ緊要ナル報告ノ寄贈ヲハ日本政府ノ一
頁ニ依頼シタリ事件ハ多ク夥多ナラザレバストーリーウエル

捕獲裁判ニ有
名ナル公法家
ヲ日本人中ニ見ル、好機會ハ夫レ或ハ
カナガラレ

此戦争ノ当初交戦国、一方ニ於テ中立国、船舶ヲ抑
留シタルノ事例尙ホ乏シアリ、即ケ其、船舶ハ英米士官
及報信ヲ運送スル為ニ敵、使用スル所ニ係リ予八百
九十四年七月二十五日、日清両国間ノ關係ハ朝鮮事件ニ
関シ大ニ切迫シタリ而シテ此時已ニ数隻ノ運送船ハ軍艦
ニ護送セラレテ牙山ニ於ケル清国軍ノ援兵ヲ上陸セシメタ
リ日本艦隊ハ朝鮮国沿岸ノ豐嶋ヲ巡航シ在リタレバ
此日午前七時頃清国軍艦ノ牙山ヨリ帰航スルモノニ攻
撃セラレ之ヲ撃退シタリ浪華艦ハ其ノ逃艦ヲ追撃シ

遂ニ飯路ニ就キシガ午前九時頃ニ及ビ英國船高陞
号、牙山へ發送スル清軍ノ援兵ヲ搭載シテ航来スルニ
會フ乃チ進航ヲ止ムヘシト信号シタリ既ニシテ浪華ノ小
艇ハ該船ニ至リ尋問スラク当号ニハ千二百名、清兵ヲ
リテ請国ノ將救教名之ニ付ハ独逸ノ少佐「フォニハンネ
ッゲン」氏亦其ノ中ニ在リ浪華艦ニ後ヒ日本マテ魚雷ニ
乗艦スルヤ如何ト船長「ガルスウオルセ」氏之ニ答ヘテ曰
ク余ハ貴艦カ軍艦ナルヲ以テ之ニ對シ敢テ拒絶スルノ勇
ナシト然レモ清国士官ハ之ニ決行スルエトヲ拒否シ居シ
船長及其ノ配下ノル英國役員ニシテ同号ヲ日本ニ回
航セシト試ムルニ於テハ之ヲ鏡技シト用意ニシテ此ニ於

0037

テ船長ハ躊躇シテ未ク決ス能ハカリシカ浪華艦ヨリ速ニ
清兵ヲ船中ヨリ撤去セヨト信号シタリ然レハ之ニ應セザ
ルヲ以テ十二時ヨリ一時之間ニ該艦ハ水雷ヲ發射シ其ノ船
側ニ命中シテ汽機ニ爆破ミ遂ニ之ヲ沈没シタリ甲板
上ノ人々ハ一瞬ハ東移ニシト試ミ又ハ水に躍下シタリ歐
洲人ノ多数ハ浪華艦ノ小艇ニ救助セラレシ此ノ報始メ
テ英國ニ到リテ人心激昂シ諸新聞紙上ニ社説ハ甚々リニ
筆ヲ弄シテ以テ言ヘシク大英國ノ国旗ニ侮辱シタル日本
ハ十分ノ謝罪ヲ致サル可ク又戰時ニアラズシテ之ヲ
為スハ残忍ノ慘事ナリトモ或ハ船舶ノ所有主及沈没シタル
英國役員屍機関手ノ遺族ニ對シテ十分ノ救助金ヲ出サ

シムベント論ニタリ英國ニテ斯ク置タル本件ノ未タ明確
ニ詳悉セラレスシテ且ツ公衆カ猶ホ此事變ニ適應スヘキ法
律ノ正理ヲ知得スル餘程以前ナリキ然レモ今日ニ至リテハ世
人ハ博士ウエストレーキ氏並余カ当初ニ論陳セシ意見
ノ正當ナリシヲ了解セラレシナラン而シテ余ノ意見ハ八月
八日ヲ以テタイムズ新聞紙上ニ於テ之ヲ公ニシタリ顧テニ
當時宣戦ノ公告ナシト雖モ已ニ宣戦ノ状態ニ在リナラ
ン斯ク宣戦ノ状態現存スルニ於テハ中立國ノ船舶ニシテ
若シ禁制ノ商業即ケ宣戦國ノ一方ノ爲メニ重負ヲ運致
スルノ業ヲ営ムニ於テハ宣戦國ノ他ノ一方ハ之ヲ折留シ
且ツ捕獲審檢所ニ求刑スル爲メニ本國ニ送致スヘキハ當

然ニテ該船舶ノ固ヨリ免カレサルノ責任ナリ而シテ若シ該船舶ニシテ之ヲ拒否セバ之ヲ扣留送致スルニ必要ナル勢力ヲ強用シテ之ヲ服従セシムルヲ得余ノタイムズ新聞紙上ニ於テ公ニシタル意見ハ此主義ヲ適應シテ論述シタルモノナリ即チ花ノ如シ

高陞号ハ其ノ第一發水雷彈ノ発射セラル、前已ニ中立国ノ船舶ヲ以テ交戦国ノ運送用ニ使用セラレシトハ承知セルナリ(同号ハ戦時敵ヲ欺クノ用トシテカ將タ他ノ目的ニテカ大英國旗ヲ掲揚シタリ且スレ全ク不必要ナリ)其ノ責任ハ花ノ二條ナリ

第一 離隔セル船舶タルニ於テハ之ヲ留メラルハ

留マリテ来船尋問ヲ受ケ又日本国ノ捕獲審檢所ニ
テ裁判セラル、爲メニ引致セラル、ノ責任アリ若シ実
際日本人ノ捕獲負カ該船ニ乗入ルヲ能ハサル場合
アルニ際シテハ日本ノ艦長ハ其命令ヲ遵行セシムル爲
メ之ヲ強迫スルニ必要ノ威力ヲ使用スル權利アリトス
第二 高陞号ハ陸上ニ在ル清軍ノ援兵ヲ運致スル
ノ用ニ供セテタル運送船又ハ軍艦ノ一トシテ明白ニ敵
對ノ遠征ノ一部公タリ故ニ日本人ヨリ之ヲ視レハ全
ク敵トシテ取扱フハ当然ナレハ其ノ到着地ヘ着セサル
ニ先タケ之ヲ妨阻スル爲メニ必須ノ全力ヲ使用スルハ
日本人ノ權利ナリトス

敵国ニ属スル中立国、運送船ヲ折角シ又ハ戦闘準備ノ進捗ヲ妨阻スル目的ニ使用セラレタル勢力大ハ適法ノ範圍ヲ脱シタルモノニ非サルガ如シ加之海中ヨリ救ハレタル役負モ正当ニ放免セラレタレハ余ハ中立国、權利上何レノ兵ヲモ侵犯セラレシヲ見出ス能ハガルナリ故ニ吾人、政府ハ之ニ對シテ、口實ヲ有スルエトナク又高陞号ノ所有主並ニ死没シタル歐洲人、乗負タリシ者ノ遺族モ賠償ノ請求ヲ為スヘキ權利ナキモノトス

以上這般ノ事變ニ関スル吾人、批評ハ老ノ結論ヲ生セリ
即チ日本ハ旅順口ニ於テ遺憾ナル棄行アリシヲ除キテハ

其ノ敵ヲ待ツノ手暇ト云ヒ中立国トノ關係ト云ヒ能ク戰
時公法ヲ遵守シ泰西歐洲ノ最モ文明国ト齊シキ價值
アルモトス之ニ反シテ清国ハ文明ノ戰法ヲ採用ヒシ現証ナ
ク又清国ハ交戰国ニ於ケル中立通商ニ對シテ許容セラレ
シ權利ヲ執行スルノ準備アリト雖モ捕獲審檢所ヲ開
設シ及違法ノ道ニ使用スル船舶ヲ禁止スルノ手暇ヲ盡
カバリシ且レ最モ遺憾ナル事ナラズヤ三十年前清国ハ
北京ニ於テ萬国公法ヲ講究シテ爾來ホイトン氏「マ
ルティン氏」カールゼー氏及アルニケエリー氏ノ著書ニ
「國際法中ノ戰時公法ヲ漢譯シタリ其ノ翻譯者タル博
士マルティン氏ハ同文館ヨリ帝國大學ノ國際法ノ教

0043

授タリ然ルニ清国ハ斯ク夙ニ公法ヲ講究セシモ拘ハラス
唯ニ公法ノ基本ニシテ最モ學ヒ易キモノ即チ使臣ノ禮
節及外交上ノ処置ニ通曉セシノミ此レ前收第三ニ開
載セシ所、如之而シテ戰時公法ニ至リテハ未ク之ヲ會
得スル能ハザルナリ

20

0044